タイプII タンパク質アルギニンメチルトランスフェラーゼ

Cat. No. EXWM-1928

Lot. No. (See product label)

はじめに

□明	酵素は、タンパク質内のアルギニン残基における末端グアニジノ窒素原子の1つのメチル化を触媒し、モノメチルアルギニンを形成します。その後、2つ目の末端窒素原子のメチル化が行われ、□称的なジメチルアルギニンが形成されます。哺乳類の酵素は、核内および細胞質内で活性を持ち、特定の小核リボヌクレオプロテインをメチル化することによってsnRNPコア粒子の組み立てに関与しています。cf. EC 2.1.1.319、タイプIタンパク質アルギニンメチルトランスフェラーゼ、EC 2.1.1.321、タイプIIIタンパク質アルギニンメチルトランスフェラーゼ、及びEC 2.1.1.322、タイプIVタンパク質アルギニンメチルトランスフェラーゼ。
別名	PRMT5（遺伝子名）；PRMT9（遺伝子名）

製品情報

形態	液体または凍結乾燥粉末
EC番号	EC 2.1.1.320
反□	2 S-アデノシル-L-メチオニン + [protein]-L-アルギニン = 2 S-アデノシル-L-ホモシステイン + [protein]-Nω,Nω'-ジメチル-L-アルギニン (全体反□); (1a) S-アデノシル-L-メチオニン + [protein]-L-アルギニン = S-アデノシル-L-ホモシステイン + [protein]-Nω-メチル-L-アルギニン; (1b) S-アデノシル-L-メチオニン + [protein]-Nω-メチル-L-アルギニン = S-アデノシル-L-ホモシステイン + [protein]-Nω,Nω'-ジメチル-L-アルギニン
備考	このアイテムはカスタム生産が必要で、リードタイムは5□9週間です。ご要望に□じてカスタム生産が可能です。

保管・発送情報

保存方法	短期間は +4 ℃ で保管してください。長期間保管する場合は -20 ℃~-80 ℃ で保管してください。